

平成15年10月23日
内閣府(防災担当)

中央防災会議「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」の開催について

1. 専門調査会設置の経緯・目的

日本海溝・千島海溝周辺ではこれまでにマグニチュード7や8クラスの大規模地震が多く発生している。このうち、宮城県沖地震は約40年間隔で繰り返し発生しており、その切迫性が指摘されている。また、約2万2千人の死者が発生した1896年明治三陸地震など、津波による大きな被害が発生している。本地域では大規模地震の発生が懸念されており、これら広域、甚大な被害をもたらす地震対策を検討し、地震防災対策を強力に推進するため、本年7月の中央防災会議において、専門調査会を設置することが決定された。

これを受けて、地震学、地質学、建築工学、土木工学等の専門家10数名からなる「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」(座長：溝上恵 東京大学名誉教授)を発足することとした。

2. 検討事項

これまでの東海地震や東南海・南海地震と異なり、日本海溝・千島海溝周辺では規模の大小、揺れや津波等について様々な特徴を持つ地震が発生しているため、まず、これまでに蓄積された観測データや研究成果から、日本海溝・千島海溝周辺で発生する海溝型地震について、その特徴を明らかにする。

その後、地震の揺れや津波の高さ等を推計することで、防災対策の対象とする地震を明確化し、今後の防災対策の検討に資する。

- (1) 日本海溝・千島海溝周辺で発生する海溝型地震の明確化
- (2) 地震の揺れや津波の高さの推計
- (3) これらにより発生する液状化、急傾斜地崩壊、津波による浸水の状況等の検討

3. 第1回専門調査会について

- (1) 会議名 中央防災会議
「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」(第1回)
- (2) 日 時 平成15年10月27日(月) 10:30~12:30
- (3) 場 所 虎ノ門パストラル 新館5階 「ミモザ」
東京都港区虎ノ門4-1-1 03-3432-7261(代)
- (4) 議事内容 ・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する対策の現状と課題
(予定) ・検討の進め方 等
- (5) その他 会議冒頭撮り可
防災担当大臣出席予定
当日の18時を目途に内閣府(防災担当)において議事概要を配布予定

<連絡・問い合わせ先>

内閣府	地震・火山対策担当参事官補佐	齋藤 誠
	参事官付主査	宮川 康平
TEL: 03-3501-5693 (直通)		FAX: 03-3501-5199